

スラブ・ユーラシア研究センターでメルボルン大学との ジョイントセミナーを開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、1月12日（金）に北海道大学—メルボルン大学ジョイントセミナー“Eurasian Migration. Past, Present and Future”を開催しました。本セミナーは、北海道大学とメルボルン大学が国際研究連携深化のために、新規研究テーマと異分野融合研究の可能性を探る合同コンファレンスの開催、博士課程学生の共同指導の更なる促進、そして新規研究連携を支援する合同研究ワークショップファンドを立ちあげ、その2023年度採択ワークショップとして催されたものです。

また、このジョイントセミナーは、大学共同利用機関法人人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクトのグローバル地域研究推進事業「東ユーラシア研究プロジェクト」（以下、

「EES」）における四拠点の一つ（他に東北大学、国立民族学博物館、神戸大学）として、「文化衝突とウェルビーイング」、とりわけ「越境とジェンダー」を中心テーマとする研究事業との共催でもありました。

メルボルン大学側からは博士候補者を含む6名、北海道大学側（主にEES北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点メンバー）からは7名が参加し、過去、現在、未来における「移動」を軸に活発な議論を行いました。ロシアによるウクライナ侵攻という今般の世界情勢を踏まえ、ロシア帝国・ソ連西部国境地域に関する歴史研究の再構築、戦後冷戦秩序における移民難民問題など、多岐に渡るテーマをもとに、熱心なやり取りが交わされました。さらに、今後の共同研究のための

研究班の結成、来年度以降の研究発展計画の作成を話し合い、さらなる研究協力の拡大に繋がるとても有意義なワークショップとなりました。

セミナーに先立ち、メルボルン大学研究者らは本学附属図書館を訪問し、大型コレクションを見学し、附属図書館が世界に誇る大型コレクション、特にヴェルナツキー文庫、ボリス・スヴァーリンコレクション、ロシア亡命文学コレクション、ヘンリク・ゲルシンスキー旧蔵ポーランドコレクションなどに強い関心を寄せ、将来的な本学での長期在外研究についても相談を受けたほどでした。図書館ツアーにご協力いただいた附属図書館スタッフに感謝いたします。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



オープニングリマークスをする
メルボルン大学のマーク・エデーレ教授



セミナーでの議論の様子



セミナー参加者の集合写真